

## 第5学年B組 音楽科学習指導案

授業者  
研究協力者

大山 光子  
吉澤 恭子、川辺 茜

### 1 題材名 民ようお国めぐり ～秋田の民よう～

#### 2 子どもと題材

##### (1) 子どもについて

5年生の歌唱表現の学習において、少人数でのアンサンブルを通して音の重なりを意識した輪唱や、曲の盛り上がりを見付けながら曲の感じに合った歌い方の工夫などを経験してきており、声を合わせて歌うことに意欲的である。

また、4年生の学習「日本と世界の音楽」において、日本各地のお祭りの音楽や北海道民謡ソーラン節に触れており、「民謡」でどんな曲を知っているかの質問に対しては、ほとんどの子どもが既習のソーラン節を挙げている。中には、その土地に伝わる伝統的な歌や踊りと答える子どもも少数いたが、「民謡」は馴染みが薄い音楽である。

5年生の学習「日本の音楽」で、日本各地の民謡を鑑賞したり歌ったりするが、この機会に郷土秋田県の民謡に思いきり浸らせたいと考える。本物の歌声、楽器の音色に触れ、秋田県民謡のよさや面白さを味わいながら、声や身体で表現する姿を期待する。小学校の学びで秋田県民謡のよさを見だし、伝承していこうという気持ちが少しでも芽生えてくれることを願う。

##### (2) 題材について

本題材における「学びのものさし」を働かせる姿を、民謡独特の発声や歌い方のモデルを見付け、真似しながら試行錯誤し、表現しようとする姿であると捉える。

本題材は、主に郷土秋田県の民謡を教材として扱うことで、民謡をより身近な音楽として感じたり、先人が残した民謡の面白さやよさを味わったりすることをねらいとしている。また、日本の伝統的な音楽への興味・関心が高まり、音楽観が広がっていくことを目指している。

本題材で取り上げる曲は、秋田県民謡「ドンパン節」「秋田音頭」で、2曲とも秋田県の代表的な民謡である。「ドンパン節」は、秋田県大仙市中仙地域で生まれた民謡で、明るい曲調（調子）で秋田のお国自慢が歌詞になっている。お囃子調の「ドンドン パンパン」は覚えやすく、自然に口ずさみたくなる旋律である。4年生のときの芸術鑑賞教室でも演奏された曲なので聞き覚えのある曲でもある。「秋田音頭」は、三味線、笛、太鼓、鐘などの伴奏で滑稽な歌詞をリズムカルに並び上げることが特徴であり、出だしのかけ声以外はあまり音程がなく、七七九の韻律を基本としたリズムに乗せて台詞を述べ上げたものである。ラップのような感覚で、秋田名物を紹介しているのも面白い。テレビのCMや商業施設などでも流れていることがある曲で、聞いたことはあるであろう。

民謡というこれまでの教材とはジャンルの異なる音楽に触れながら、**曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをもち発声に気を付け、民謡らしい歌い方で歌う**という資質・能力を高めることを目指す。

##### (3) 指導について

研究の重点一つ目との関連から、よりよい表現を目指し、表現の質を高めることができるように、協働する中で自分にとってのモデルを見付け表現に取り入れる場を設定する。そこで題材の導入では、民謡の面白さや既習の歌唱表現とは異なる新鮮さを体感することができるように、民謡の出前授業を活用し、生の演奏を鑑賞し本物に触れる場を設ける。また、楽曲の模範演奏の聴きたい部分を何度も聞き返すことができるようにICTを活用することで、モデルの表現に近付こうと試しながら歌う姿を引き出す。歌い込んでいく段階では、少人数でのアンサンブル活動を取り入れることにより、仲間の中から自分のモデルとなる存在を見付け出し、民謡の特徴を表すための発声や節回しを自分なりに探究できるようにする。

研究の重点二つ目との関連から、愛着をもって郷土の民謡に親しむことができるように、楽曲は特徴が異なる2曲から自分が歌いたいものを選択できるようにする。民謡の特徴にふさわしい表現の工夫を確かめることができるように、聴き合いながら助言し合ったり、全体で歌い試したり歌い直したりする場を設定する。さらには、本物の秋田県民謡のよさにたっぷり浸ることができるよう、ゲストティーチャーを招き、よりよい表現のためのアドバイスをもらったり、実際にモデルとして歌ってもらったりする場を設ける。

### 3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 民謡の声の音色や響き及び民謡独特の発声や歌い方について理解するとともに、呼吸や言葉の発音、身体の使い方に気を付けて歌うことができる。 (A-9・12)
- (2) 民謡の声の音色、旋律や拍に着目し、どのような歌い方がよいか考え、特徴にふさわしい表現を工夫することができる。 (A-3)
- (3) 民謡の歌い方や曲の特徴に興味・関心をもち、我が国で歌い継がれている民謡のよさ・面白さを味わいながら聴いたり歌ったりしようとする。 (エ・オ)

4 題材の構想 (総時数6時間)

曲の感じを生かして歌おう 「こいのぼり」「花のおくりもの」～歌詞や曲想を生かして歌うことができる。  
日本の音楽を楽しもう 「ソーラン節」 (第4学年)～曲の感じに合った歌い方を見つけ、楽しみながら歌うことができる。

本題材

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1	(1) 日本各地の民謡のよさを 味わいながら聴く。 ・おもしろい言葉だね。 ・何と言っているのか、よく分 からないな。	・日本地図を参考にしながら日本 各地にいろいろな民謡が伝承し ていることに触れ、声の出し方 や節回しの面白さなど、よさや 特徴が異なる曲を準備する。	・日本各地の民謡に興味 関心をもち、よさや面 白さを味わいながら聴 いている。 (エ)
2	(2) 出前授業を通して、生の 民謡演奏のよさを味わい、 民謡を歌う。 「ドンパン節」「秋田音頭」 ・聴いたことがある曲だ。秋田の 名物が出てくるね。 ・手拍子をしたくなるね。 ・合唱のときと声の出し方が違う んだ。 ・上がったりが下がり難い。	・民謡のよさや迫力を体感するこ とができるように、歌い手や楽 器演奏など生の民謡に触れる場 を設ける。 ・歌ってみたいという気持ちを高 めることができるように、少し でも民謡らしい歌い方ができ たら賞賛し、よさを価値付け ていく。	・曲の特徴を理解し、ど のように歌いたいのか 思いをもっている。 (A-3) ・範唱を聴き、発声に気 を付け、民謡らしい歌 い方を真似して歌っ ている。 (A-9・12)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p>学習課題 声の出し方や節まわしのおもしろさを感じながら、民ようを歌 おう。</p> </div>			
3 ・ 4	(3)「ドンパン節」「秋田音頭」 を歌う。 ・ちょっとなまって言うのが民よ うっぽくなるな。 ・自分の声はラップみたいな感じ が合ってるから「秋田音頭」に してみよう。 ・Aさんの歌い方がお手本になる ね。	・曲の感じや声の出し方、節回し などから自分に合っている、ま た歌ってみたい曲を選択でき るようにする。 ・モデルを真似て試しながら歌 うことができるように、ICTを 活用し模範演奏を自分のタイ ミングで鑑賞するよう促す。 ・歌い進めていくことが難しい子 どもは、自分のモデルになる友 達を見付けることができるよ うに少人数でのアンサンブル活 動を取り入れる。	・民謡の声の音色や響 き、言葉の特性や曲に 適した発声との関わり について理解してい る。 (A-3)  ・範唱を聴き、発声に気 を付け、民謡らしい歌 い方で歌っている。 (A-9・12)
5 本 時	(4)「ドンパン節」「秋田音頭」 を曲の特徴にふさわしい表 現で歌う。 ・Bさんは、お腹から声を出して いるのがよく分かる。 ・太鼓のリズムとタイミングを合 わせると歌いやすいな。 ・伴奏に合わせて歌うと気分がい いな。	・よりよい表現ができるように、 ゲストティーチャーの範唱を聴 いたり、歌い方のポイントを助 言してもらったりする場を設 ける。 ・曲の特徴にふさわしい表現のよ さを認め合うことができるよ うに、「演奏者」「聴き手」になり、 聴き合いながら助言し合える場 を設ける。	・曲の特徴にふさわしい 表現を工夫し、声の出 し方や節回しに気を付 けて歌っている。 (A-3・12)
6	(5)「秋田民ようお披露目会」 を開く。 ・Cさんは、楽しそうに歌ってい て、本物の歌手みたい。	・相手意識をもって歌い、互いの 表現のよさを実感することが できるように、学年音楽の場を 設定し、各学級の民謡を聴き合 う活動を取り入れる。	・曲の特徴にふさわしい 表現を工夫し、民謡の よさを味わいながら民 謡らしい歌い方で歌 っている。 (オ・A-3・12)

**◎本題材で育む主な資質・能力**  
曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをもち発声に気を付け、民謡らしい歌い方で歌う。  
(A-3・9・12)

思いをこめて表現しよう 第5学年 「君をのせて」 第6学年 「つばさをください」「ぼくらの日々」  
曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら、よりよい音楽表現を目指し、思いをもって歌うことができる。

5 本時の実際（5／6）

(1) ねらい 民謡の声の音色や声の出し方に着目し、試しながら歌い直す活動を通して、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら歌うことができる。 〈A-3・12〉

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
5分	<p>① 学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い切ってまっすぐな声が出せないな。</li> <li>・まだ、拍に合っていないような気がする。</li> </ul>	<p>○民謡独特の表現に近付くことができるように、前時までの達成度を振り返る場を設定する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>学習課題 声の出し方や節まわしのおもしろさを感じながら、民謡を歌おう。</p> </div>		
35分	<p>② 「ドンパン節」「秋田音頭」を歌う。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>全体 ↓ グループ ↓ 全体（聴き合う・歌い直す）</p> </div> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <p><b>【民謡らしく歌えない】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お腹から声を出すのが難しい。</li> <li>・お手本動画をもう一度見てみよう。</li> <li>・うまく節まわしができないな。</li> </ul> <p><b>【一人では不安だが友達と一緒に歌える】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの歌い方をまねしたら、上手く歌えるようになった気がする。</li> <li>・〇〇さんのとなりで歌うと、安心して歌えるね。</li> <li>・手拍子をしながら歌うと、歌いやすいよ。</li> </ul> <p><b>【「歌い手」は難しいけど「合いの手」は歌える】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「合いの手」のタイミングは、ばっちりだ。</li> <li>・それぞれ役割があるみたい。歌い方を変えたらよいのかな？</li> <li>・「合いの手」は盛り上げる役みたいだから、はっきりと強めに出してもよいのではないかな？</li> </ul> <p><b>【民謡らしい発声で歌っている】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めの「ヤートセ」は、もっと揺らした方がよい。</li> <li>・ちょっとなまった感じで歌うとよいのかも。</li> <li>・ゲストティーチャーのように迫力のある声の出し方をまねしたいな。</li> </ul> <p><b>【楽しみながら民謡を歌っている】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓のリズムが入ると盛り上がってきて民謡っぽくなるね。</li> <li>・踊りも入ると本物の民謡みたいになるから、やってみよう。</li> <li>・オリジナルの歌詞をつくって歌ってみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で一緒に歌ったり、アドバイスをもらったりするゲストティーチャーを紹介する。</li> <li>・一人一人が自信をもって歌うことができるように、声の出し方や節回しを意識して発声できているときは全体に紹介し、価値付ける。</li> <li>・民謡らしい歌い方に近付くことができるように、子どもたちが困り感を認識し、ゲストティーチャーに相談できる場を設定する。</li> </ul> <p>○民謡独特の声の出し方がどのようなことなのか実感できるように、発声を意識して歌っている子どもをモデルとして取り上げたり、ゲストティーチャーの範唱を提示したりする。</p> <p>○曲の特徴にふさわしい表現になっているかを確認することができるように「演奏者」と「聴き手」に分かれて歌ったり聴いたりしながら、対話する場を設定する。</p> <p>○聴き合ったことを基に、民謡独特の発声や歌い方など、よりよい表現につなげることができるように、視点を明確にして歌い直してみるよう促す。</p>
5分	<p>③ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いっきり声を出して歌うことが、とても気持ちよかった。</li> <li>・生演奏に合わせて歌うと、歌いやすいし上手になった感じがした。</li> </ul>	<p>○自分たちの表現のよさを実感したり、次時の課題を確認したりすることができるように、声の出し方や節回しについて振り返る視点を提示する。</p>

曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、声の出し方や節回しに気を付けて歌っている。 〈A-3・12〉  
(歌っている表情や様子・歌声・発言)

## 令和6年度 音楽科実践・研究計画

部 員	○大山 光子、中田 貴広
-----	--------------

研究テーマ  
**「音楽のもと」を根拠とし、思いをもって音楽と豊かに関わる子どもを育む学び**

### 1 研究テーマについて

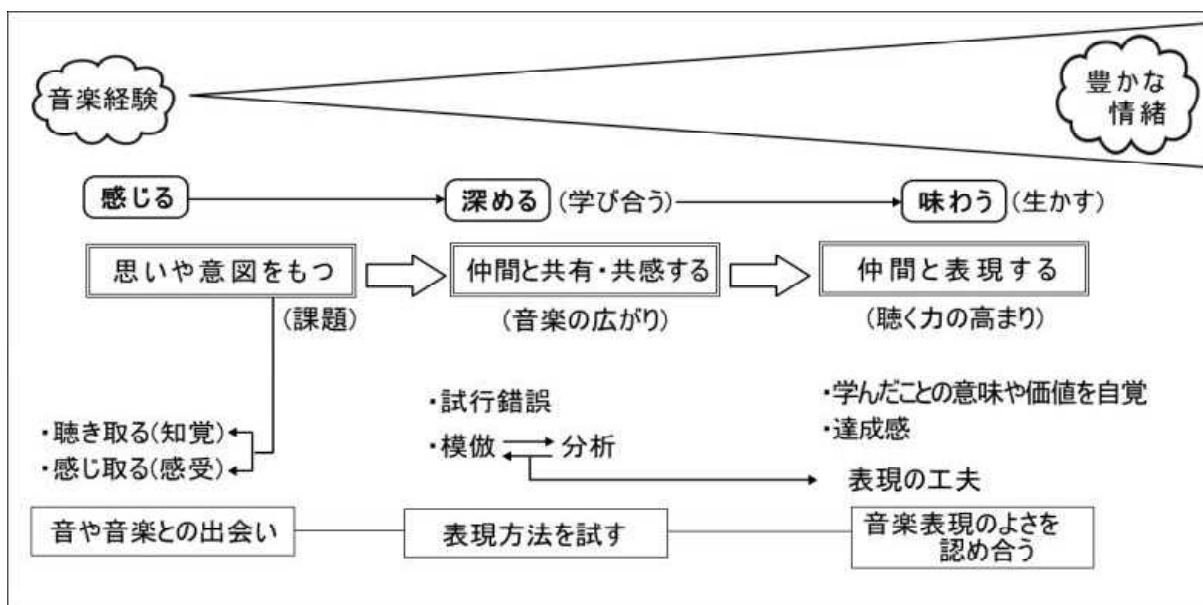
音楽科では、子どもたちが生涯にわたって音や音楽と豊かな関わりを築き、音楽を通じて生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指している。

音楽活動の醍醐味は、仲間と感動体験を共有できることである。言葉や文字では伝えることができない気持ちや、心と心がつながる感覚が、音楽を媒介にすることで伝わる。声や音、息を合わせることで体感できる一人では味わうことのできない心地よさや、音楽が人と自分をつないでくれるという安心感があるからこそ、私たちは音楽と関わり続けるのである。

昨年度の実践で、身近なモデルの存在が「学びのものさし」を自発的に働かせ、更新することに結び付くことが分かった。ゲストティーチャー（中学生）を招いたことで、モデルに近付こうとする気持ちの高まりによる表現力の向上が見られた。また、音楽の質を高める契機にもなった。一方で、よりよい表現にするため、表現の引き出しを増やしていく手立てが必要となってきた。そこで、仲間と表現する中で「音楽のもと」を根拠とし、試行錯誤しながらよりよい表現を目指していく子どもの姿を期待し、本テーマで実践を積み重ねていく。

音楽科で目指す自律した子どもの姿

- ・「音楽のもと」（音楽を形づくっている要素）に目を向けながら、自らの音楽表現をよりよいものにしようとする姿
- ・知覚と感受の両方を働かせて、思いをもって音楽に働きかける姿
- ・音楽活動を通して仲間と共有・共感するなど、人とのつながりを大切にする姿



図：音楽科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

### 2 研究の重点 <○は具体的な取組の例>

**試行錯誤ながら、よりよい表現を目指す子どもを支えるための学びのデザイン**

- よりよい表現を目指し、表現力の向上につながるように、協働活動の中で自分にとってのモデルを見つけ表現に取り入れる場を設定する。
- 心の通じ合いを感じながら、根拠をもって互いの音楽表現のよさを認め合うことができるように、「演奏者」「聴き手」になり、聴き合いながら助言し合える場を設定する。

## 令和6年度 「音楽科の資質・能力」表

※ □は、資質・能力の取り扱い学年，■は、定着学年を示す。

		内 容	学習指導要領との関連内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
音楽科の学びに向かう力、人間性等	ア	自分と周囲が奏でる響き合いの美しさ、心地よさを味わいながら、優しい気持ちで演奏しようとする。	A(1)ウ A(2)ウ	□	□	■	■	■	■
	イ	パートの重なりが作り出す音の重なり的美しさに気づき、互いのバランスを考えながら演奏しようとする。	A(1)ウ A(2)ウ		□	□	□	■	■
	ウ	音を音楽にしていくことに関心をもち、進んでつくる活動にかかわろうとする。	A(3)ウ	□	□	□	■	■	■
	エ	様々なジャンルの楽曲に関心をもち、進んで聴こうとする。	B(1)	□	□	■	■	■	■
	オ	よりよい音楽表現を目指して、課題解決のために、自分なりの目標をもち、互いに支え合いながら音楽活動をしようとする。	A・B	□	□	□	■	■	■

音楽科の各領域の付けたい力 A表現	歌唱の活動								
	1	曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いをもって歌う。	1・2A(1)7	□	■	■	■	■	■
	2	曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いや意図をもって歌う。	3・4A(1)7			□	■	■	■
	3	曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌いたいのか、思いや意図をもって歌う。	5・6A(1)7					□	■
	4	曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気付いて歌う。	1・2A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	5	曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の内容との関わりに気付いて歌う。	3・4A(1)イ			□	■	■	■
	6	曲想と音楽の構造や曲想と歌詞の内容との関わりを理解して歌う。	5・6A(1)イ					□	■
	7	範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする。	1・2A(1)ウ(7)	□	■	■	■	■	■
	8	範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う。	3・4A(1)ウ(7)			□	■	■	■
	9	範唱を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして歌う。	5・6A(1)ウ(7)					□	■
10	自分の歌声や発音に気を付けて歌う。	1・2A(1)ウ(イ)	□	■	■	■	■	■	

## A表現

11	呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う。	3・4A(1)ウ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
12	呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う。	5・6A(1)ウ(イ)					<input type="checkbox"/>	■
13	互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	1・2A(1)ウ(ウ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
14	互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	3・4A(1)ウ(ウ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
15	各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。	5・6A(1)ウ(ウ)					<input type="checkbox"/>	■
器楽の活動								
16	曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもって演奏する。	1・2A(2)7	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
17	曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏する。	3・4A(2)7			<input type="checkbox"/>	■	■	■
18	曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもって演奏する。	5・6A(2)7					<input type="checkbox"/>	■
19	曲想と音楽の構造（リズムや旋律などの特徴）との関わりについて気付く。	1・2A(2)イ(7)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
20	曲想と音楽の構造（リズムや旋律、各声部の役割、曲全体の構成の特徴）との関わりについて気付く。	3・4A(2)イ(7)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
21	曲想と音楽の構造（音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みの関係）との関わりについて理解する。	5・6A(2)イ(7)					<input type="checkbox"/>	■
22	楽器の音色のよさや面白さ、演奏の仕方を工夫することで音色が変わることに気付く。（鍵盤ハーモニカなど）	1・2A(2)イ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
23	楽器がもつ固有の音色や響きのよさ、楽器の演奏の仕方や楽器の組み合わせなどの工夫で音色や響きが変わることに気付く。（リコーダーなど）	3・4A(2)イ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
24	多様な楽器の音色や響きのよさ、演奏の仕方を工夫することで楽器の音色や響きが変わることを、演奏を通して理解する。	5・6A(2)イ(イ)					<input type="checkbox"/>	■
25	範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する。	1・2A(2)ウ(7)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
26	範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する。	3・4A(2)ウ(7)			<input type="checkbox"/>	■	■	■

## A表現

27	範奏を聴いたり、ハ長調やイ短調の楽譜を見たりして演奏する。	5・6A (2)ウ(ア)						<input type="checkbox"/>	■
28	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて旋律楽器や打楽器を演奏する。	1・2A (2)ウ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
29	音色や響きに気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する。	3・4A (2)ウ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
30	音色や響きに気を付けて、適切な演奏の仕方でも旋律楽器や打楽器を演奏する。	5・6A (2)ウ(イ)					<input type="checkbox"/>	■	
31	互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	1・2A (2)ウ(ウ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
32	互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	3・4A (2)ウ(ウ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
33	各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	5・6A (2)ウ(ウ)					<input type="checkbox"/>	■	
音楽づくりの活動									
34	声や身の回りの様々な音に親しみ、その場で様々な音を選んだりつなげたりして音遊びをする。	1・2A (3)ア(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
35	見つけた音や工夫した音を使って、その場でいろいろな音を選択したり組み合わせたりして即興的に表現する。	3・4A (3)ア(ア) 5・6A (3)ア(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
36	試しながら音楽をつくる中で、このような音楽をつくりたいという考えをもつことができる。	1・2A (3)ア(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
37	試行錯誤しながら音楽をつくる中で、このような音楽を、このように構成してつくりたいという考えをもつことができる。	3・4A (3)ア(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
38	試行錯誤しながら音楽をつくる中で、全体のまとまりを考えて、このような音楽を、このように全体を構成してつくりたいという考えをもつことができる。	5・6A (3)ア(イ)					<input type="checkbox"/>	■	
39	声や身の回りの様々な音の特徴が生み出す面白さに気付くことができる。	1・2A (3)イ(ア)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
40	いろいろな音の響きや、いくつかの音のひびきを合わせた音の特徴が生み出す面白さに気付くことができる。	3・4A (3)イ(ア) 5・6A (3)イ(ア)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	
41	音を組み合わせでつくったリズムパターンや短い旋律を反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、変化させたりする面白さに気付くことができる。	1・2A (3)イ(イ)	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■	■
42	リズムパターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりする面白さに気付くことができる。	3・4A (3)イ(イ) 5・6A (3)イ(イ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■	■





＜音楽科の学びを支える「見方・考え方」＞

a 【共通事項】の「音楽を形づくっている要素」に着目し、その働きの視点で楽曲を感受し、表現すること。

＜領域の学びを深める「見方・考え方」＞

A表現 b 「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ」などの音楽を特徴付けている要素に着目し、それらの要素のよさを味わいながら表現する。

c 「反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係」などの音楽の仕組みに着目し、それらの働きが生み出すよさを感じながら表現する。

B鑑賞 d 楽曲の音楽の構造（音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり）に着目し、曲や演奏のよさを見だし、全体を味わいながら聴く。